

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 平成27年11月9日

【四半期会計期間】 第38期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 サイバーコム株式会社

【英訳名】 C y b e r C o m C O . , L t d .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 渡辺 剛喜

【本店の所在の場所】 宮城県仙台市青葉区一番町二丁目7番17号
(上記は登記上の本店所在地であり、本社業務は下記
「最寄りの連絡場所」において行っております。)

【電話番号】 (022)213-1856(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 経営管理部長 佐藤 文昭

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川一丁目10番10号

【電話番号】 (045)312-3271(代表)

【事務連絡者氏名】 経営管理部 経理財務室長 兀下 恵子

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第37期 第2四半期 累計期間	第38期 第2四半期 累計期間	第37期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	3,969,604	4,269,385	8,257,184
経常利益 (千円)	259,267	266,853	501,175
四半期(当期)純利益 (千円)	161,449	172,884	295,362
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	399,562	399,562	399,562
発行済株式総数 (株)	4,010,800	8,021,600	4,010,800
純資産額 (千円)	3,426,606	3,645,173	3,560,519
総資産額 (千円)	5,712,227	6,034,800	6,116,749
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	20.12	21.55	36.82
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	22.00
自己資本比率 (%)	60.0	60.4	58.2
営業活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	321,446	35,298	586,431
投資活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	232,283	3,315	454,786
財務活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	68,922	87,188	69,186
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	884,662	801,077	926,879

回次	第37期 第2四半期 会計期間	第38期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	7.03	12.37

- (注) 1. 当社は連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度及び四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社を有していないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 当社は平成27年9月1日付けをもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割しております。
なお、1株当たり四半期(当期)純利益は当該株式が第37期の期首に行われたと仮定して算出しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。
また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業のリスク」からの重要な変更はございませんが、下記のとおり記載内容の充実化を図ります。

また、下記項番につきましては、前事業年度の有価証券報告書に合わせ記載しております。

なお、重要事象等は存在しておりません。

(5) 富士ソフトグループとの関係について

取引関係について

当第2四半期累計期間における当社と富士ソフトグループとの間に以下の取引関係があります。

(イ) 親会社である富士ソフト株式会社との取引

当社は、親会社である富士ソフト株式会社との間に以下の取引関係があります。

- ・ソフトウェア開発業務等の受注
売上高 3億12百万円(前事業年度累計 6億32百万円)
- ・組織力強化・高度化を図るための出向者受入
4百万円(前事業年度累計 20百万円)
- ・事業運営に伴う建物の賃借費用
19百万円(前事業年度累計 38百万円)
- 内訳 関内オフィス 16百万円(前事業年度累計 32百万円)
我孫子オフィス 3百万円(前事業年度累計 6百万円)

当社では社外取締役2名ならびに社外監査役2名選任し、経営の透明性を確保するとともに、取締役会において、当社独自の経営判断に基づき意思決定を行うことで親会社からの独立性確保を図っております。

親会社との取引条件につきましては、市場価格を勘案し、当社との関連を有しない会社との取引と同様に交渉のうえ決定しております。なお、取締役会において、親会社との取引状況のモニタリングを実施し、取引の妥当性を確認しております。

また、当社は富士ソフト株式会社に対し、CMS(キャッシュ・マネジメント・システム)を活用した余剰資金の貸付を行っております。当第2四半期累計期間における貸付金残高は22億92百万円(前事業年度末 23億10百万円)であり、その貸付金利については市場金利を勘案して合理的に決定しております。

(ロ) 富士ソフトグループ企業との取引

当社は、富士ソフトグループ企業(兄弟会社)各社との間に、ソフトウェア開発業務の委託または受託取引がありますが、これらはグループ企業各社においてそれぞれ得意とする事業領域に関連する開発業務の受委託取引であり、当社及び各社の事業上の必要性に応じ発生しており、その取引額は1億円(前事業年度累計 1億94百万円)であります。

なお、各社との取引条件については、市場価格を勘案し、当社との関連を有しない会社との取引と同様に交渉のうえ決定しております。

また、親会社と同様、取締役会において、富士ソフトグループ各社との取引状況についてもモニタリングを実施し、取引の妥当性を確認しております。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、円安による輸出関連企業の収益改善を背景に、設備投資増加や雇用情勢改善等により国内景気が緩やかな回復傾向を続けているものの、個人消費における節約志向の継続や新興国における経済成長の減速への警戒感等により、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界においては、ソフトウェア開発における短納期化及び低コスト化に加え技術者不足の常態化が継続しております。しかしながら、情報システムやネットワークのセキュリティ対策及び信頼性の確保に対する取り組みや、防災、医療等の社会インフラ並びにエネルギー分野の需要拡大に加え、ビッグデータ、クラウド・コンピューティング、IoT (Internet of Things)、M2M (Machine to Machine) といった新たな技術の利活用に向けた取り組み、マイナンバー制度への対応により大企業を中心としたIT投資需要は堅調に推移してまいりました。

このような状況下、当社はリピートオーダーの確保や新規顧客の開拓に向けた受注活動を推進し、今後の需要拡大が見込まれる分野への積極的な営業展開を図ってまいりました。また、当社独自の生産管理手法を活用し、工数管理の徹底による生産性向上に向けた取り組みを継続しており、情報セキュリティに対する取り組みとしてISO27001 (ISMS) の認証取得拡大を行っております。さらに、動員力強化に向けた取り組みとして中途採用を積極的に実施すると共に、パートナーと位置付ける協力会社とのリレーションシップ拡充施策を実施いたしました。

ソフトウェア開発事業においては、各部署における得意分野の豊富な実績やノウハウを活かした開発体制への集約と強化を行っております。また、ISO9001に準拠した品質マネジメントシステムの徹底等により品質の向上を図ると共に、OSSの利活用や部品化の徹底、ツールの活用等により生産性向上を図ってまいりました。

サービス事業では、SIサービス（構築・保守・運用・評価検証サービス）の受注強化や、独自プロダクトであるCyber Smartシリーズ製品の機能拡充に向けた取り組みに注力すると共にイベントへの出展等による販売強化に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における経営成績は、売上高42億69百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益2億59百万円（前年同期比3.6%増）、経常利益2億66百万円（前年同期比2.9%増）、四半期純利益1億72百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

当第2四半期累計期間におけるセグメント別の業績は以下のとおりであります。

（ソフトウェア開発事業）

当社の主力事業でありますソフトウェア開発事業は売上高34億46百万円（前年同期比10.2%増）、営業利益4億87百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

通信ソフトウェア開発は、海外向け通信システム案件が堅調に推移いたしました。国内の通信キャリア向けシステム案件が減少傾向となりました。制御ソフトウェア開発では、ECU (Engine Control Unit) 関連やカーナビゲーション関連、ITS (Intelligent Transport Systems: 高度道路交通システム) 関連等の車載システムに加え複合機の開発案件が好調に推移し、さらにアミューズメント機器の開発案件が堅調に推移いたしました。また、業務ソフトウェア開発は、企業向け基幹システム開発案件、医療向けシステム案件、ECサイト構築案件、金融向け業務システム開発案件、エネルギー関連のシステム開発案件等が好調に推移いたしました。

（サービス事業）

サービス事業は売上高8億22百万円（前年同期比2.3%減）、営業利益1億4百万円（前年同期比13.7%減）となりました。SIサービス（構築・保守・運用・評価検証サービス）においては、クラウド基盤等の構築案件は堅調に推移いたしました。保守・運用・評価検証の案件が減少したことに加え、SIサービス全体での要員不足の状況が続きました。また、独自プロダクトにおいては、Cyber Smartシリーズ製品の機能拡充に向けた取り組みに注力し今後の販売拡大に備えた先行投資を実施したため、売上実績が前年同期を下回る結果となっております。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べて81百万円減少(1.3%減)し60億34百万円となりました。その内訳は、流動資産が1億21百万円減少(2.3%減)し52億48百万円となり、固定資産が39百万円増加(5.3%増)し7億86百万円となったことによるものであります。

流動資産減少の主な要因は、現金及び預金の減少1億25百万円によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて1億66百万円減少(6.5%減)し23億89百万円となりました。その内訳は、流動負債が2億12百万円減少(16.2%減)し10億98百万円となり、固定負債が45百万円増加(3.7%増)し12億91百万円となったことによるものであります。

流動負債減少の主な要因は、法人税等の納付による未払法人税等36百万円、その他流動負債1億31百万円の減少によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて84百万円増加(2.4%増)し36億45百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べて1億25百万円減少(13.6%減)し8億1百万円となりました。

営業活動により支出した資金は、35百万円(前年同四半期は3億21百万円の獲得)となりました。これは主に、税引前四半期純利益が2億66百万円、未払消費税の減少1億33百万円、法人税等の支払額1億24百万円によるものであります。

投資活動により支出した資金は、3百万円(前年同四半期は2億32百万円の支出)となりました。これは主に、固定資産の取得によるものであります。

財務活動により支出した資金は、87百万円(前年同四半期は68百万円の支出)となりました。これは、配当金の支払によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社の主力事業であるソフトウェア開発事業においては、通信系のソフトウェア受託開発を中心に、その技術を活用したシステム開発やサービスを展開しております。

情報通信業界においては、マイナンバー制度への対応や金融系システムの刷新、統合といった大型案件等、拡大するIT投資需要に加え、ビッグデータやクラウド・コンピューティング、IoT(Internet of Things)、M2M(Machine to Machine)といった新たな技術の利活用に向けた取り組み、社会インフラ、医療、エネルギー、車載等に向けた成長分野への投資が見込まれます。当社は当該分野を中心にサービスを展開していく方針であります。

しかしながら、情報通信業界における設備投資及び開発投資動向が当社の想定どおりに推移する保証はなく、顧客の収益動向が悪化した場合は投資全般が縮小し、当社の経営成績及び財政状態は影響を受ける可能性があります。また、当事業については、通信業界以外の各企業等の情報化投資の動向により影響を受ける可能性があります。さらに、当業界においては、技術者不足の状況が続いており、当社の想定どおりに技術者の確保が進まない場合は、当社の経営成績に影響を受ける可能性があります。

こうした事業環境のなか、当社は中期基本方針として「基盤事業拡大と高付加価値事業の確立」を掲げ、ソフトウェア開発事業において保有する多くの実績と専門性の高いノウハウを活かし、通信ソフトウェアを中心とした受託開発に引き続き注力すると共に、独自の看板技術の徹底強化を図ってまいります。サービス事業においては、これまで創出してきた自社プロダクトやサービスに加え、自社技術を活かした新たな価値・サービスを提供するソリューションビジネスの展開によりシェア拡大を図ってまいります。技術面においては、技術革新が激しい当業界において

最新技術力の確保を目的として、技術習得の強化と専門技術の高度化に努めてまいります。さらにこれまでに培われた技術ノウハウの積極的な活用と品質及び生産性の向上にも努めてまいります。営業面においては、市場ニーズを把握したうえでの確かな提案を行うなど効果的な営業を実践し、更なる事業拡大を図ってまいります。また、動員力強化の取り組みとして中途採用を積極的に実施し、パートナーと位置付ける協力会社とのリレーションシップ拡充も図ってまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,043,200
計	16,043,200

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,021,600	8,021,600	東京証券取引所 市場第二部	全て完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない、 当社における標準となる株式 であります。なお、単元株式 数は100株であります。
計	8,021,600	8,021,600		

(注) 平成27年8月4日開催の取締役会決議により、平成27年9月1日付けをもって、1株につき2株の割合で株式分割をしております。これに伴い発行済株式総数は4,010,800株増加し、8,021,600株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年9月1日	4,010,800	8,021,600		399,562		307,562

(注) 平成27年9月1日付けをもって、1株につき2株の割合で株式分割をしたことに伴い、発行済株式総数が4,010,800株増加しております。

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
富士ソフト株式会社	神奈川県横浜市中区桜木町1丁目1番地	4,562,000	56.87
サイバーコム社員持株会	神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1丁目10-10	694,500	8.65
城田 文晴	神奈川県横浜市青葉区	102,000	1.27
澁谷 純治	神奈川県川崎市幸区	90,000	1.12
マネックス証券株式会社	東京都千代田区麹町2丁目4-1	55,970	0.69
佐藤 文昭	宮城県亶理郡亶理町	47,900	0.59
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9番1号	46,300	0.57
阿部 浩二	宮城県仙台市泉区	44,000	0.54
徳山 教助	兵庫県神戸市北区	36,200	0.45
渋谷 賢一	神奈川県横浜市神奈川区	36,000	0.44
計		5,714,870	71.24

(注) 1. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第三位を切り捨てております。

(注) 2. 佐藤文昭氏は当社の役員であり、同氏の所有株式数には、当社役員持株会における同氏の持分(単元株式700株)が含まれております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,019,600	80,196	
単元未満株式	普通株式 1,300		
発行済株式総数	8,021,600		
総株主の議決権		80,196	

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) サイバーコム 株式会社	宮城県仙台市青葉区 一番町二丁目7番17号	700		700	0.0
計		700		700	0.0

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の異動はございません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社を有していないため、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	926,879	801,077
受取手形及び売掛金	1,826,132	1,863,004
商品	2,110	572
仕掛品	53,094	78,503
短期貸付金	2,311,196	2,293,161
その他	250,047	211,899
流動資産合計	5,369,461	5,248,218
固定資産		
有形固定資産	264,404	261,323
無形固定資産	30,835	61,656
投資その他の資産	452,048	463,601
固定資産合計	747,288	786,581
資産合計	6,116,749	6,034,800
負債の部		
流動負債		
買掛金	232,266	223,558
未払費用	162,072	170,605
未払法人税等	133,594	97,508
賞与引当金	427,075	395,948
役員賞与引当金	21,440	11,655
工事損失引当金	20,342	16,321
その他	313,981	182,642
流動負債合計	1,310,772	1,098,240
固定負債		
退職給付引当金	1,223,562	1,267,556
役員退職慰労引当金	21,894	23,829
固定負債合計	1,245,457	1,291,386
負債合計	2,556,230	2,389,626
純資産の部		
株主資本		
資本金	399,562	399,562
資本剰余金	307,562	307,562
利益剰余金	2,853,626	2,938,281
自己株式	232	232
株主資本合計	3,560,519	3,645,173
純資産合計	3,560,519	3,645,173
負債純資産合計	6,116,749	6,034,800

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	3,969,604	4,269,385
売上原価	3,158,949	3,446,335
売上総利益	810,654	823,049
販売費及び一般管理費	1 560,305	1 563,774
営業利益	250,349	259,274
営業外収益		
受取利息	5,004	3,678
助成金収入	2,600	2,590
その他	1,313	1,309
営業外収益合計	8,918	7,578
経常利益	259,267	266,853
特別損失		
固定資産除却損	32	24
特別損失合計	32	24
税引前四半期純利益	259,235	266,829
法人税、住民税及び事業税	101,433	83,855
法人税等調整額	3,647	10,090
法人税等合計	97,785	93,945
四半期純利益	161,449	172,884

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	259,235	266,829
減価償却費	7,463	9,093
賞与引当金の増減額(は減少)	24,973	31,126
役員賞与引当金の増減額(は減少)	10,120	9,785
工事損失引当金の増減額(は減少)	-	4,021
退職給付引当金の増減額(は減少)	40,918	43,993
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	3,293	1,934
受取利息	5,004	3,678
有形固定資産除却損	32	24
売上債権の増減額(は増加)	61,744	36,872
たな卸資産の増減額(は増加)	434	23,870
仕入債務の増減額(は減少)	26,643	8,707
未払消費税等の増減額(は減少)	77,149	133,903
その他	37,247	15,618
小計	399,570	85,528
利息の受取額	5,004	3,678
法人税等の支払額	83,128	124,505
営業活動によるキャッシュ・フロー	321,446	35,298
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	23,468	2,410
無形固定資産の取得による支出	8,788	19,224
短期貸付金の増減額(は増加)	200,745	18,035
その他	719	283
投資活動によるキャッシュ・フロー	232,283	3,315
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	68,922	87,188
財務活動によるキャッシュ・フロー	68,922	87,188
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	20,241	125,802
現金及び現金同等物の期首残高	864,421	926,879
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 884,662	1 801,077

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
従業員給料	195,874千円	200,506千円
賞与引当金繰入額	48,355千円	47,250千円
退職給付費用	9,584千円	10,245千円
役員賞与引当金繰入額	12,320千円	11,655千円
役員退職慰労引当金繰入額	3,293千円	3,643千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
現金及び預金	884,662千円	801,077千円
現金及び現金同等物	884,662千円	801,077千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月16日 取締役会	普通株式	70,182	35	平成26年3月31日	平成26年6月23日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月19日 取締役会	普通株式	88,229	22	平成27年3月31日	平成27年6月22日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額(注)2
	ソフトウェア 開発事業	サービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,127,855	841,748	3,969,604	-	3,969,604
計	3,127,855	841,748	3,969,604	-	3,969,604
セグメント利益	462,034	120,535	582,569	332,220	250,349

(注)1.セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに帰属しない全社費用であり、主に一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額(注)2
	ソフトウェア 開発事業	サービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,446,896	822,488	4,269,385	-	4,269,385
計	3,446,896	822,488	4,269,385	-	4,269,385
セグメント利益	487,825	104,069	591,895	332,620	259,274

(注)1.セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに帰属しない全社費用であり、主に一般管理費であります。

2.セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	20.12円	21.55円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	161,449	172,884
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	161,449	172,884
普通株式の期中平均株式数(株)	8,020,856	8,020,856

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は平成27年9月1日付けをもって、普通株式1株につき2株の割合で株式分割をしております。これに伴い、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月6日

サイバーコム株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田尻慶太

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 和田磨紀郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているサイバーコム株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第38期事業年度の第2四半期会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、サイバーコム株式会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。